

## 巻頭言

## 五島列島巡礼旅

会長 山崎 學



2019（令和元）年6月26日、バチカンで行われたミサに参列してフランシスコ教皇に祝福していただいた十本の十字架のお話の続きである。2019（令和元）年9月に下五島，2019（令和元）年10月に上五島を巡礼し，残す教会は福江島の玉ノ浦教会，嵯峨島の嵯峨島教会，小値賀島のカトリック小値賀教会，野崎島の旧野首教会のみとなった。新型コロナウイルス感染症で延び延びになっていた巡礼にしぶれを切らして，2022（令和4）年12月7日前泊していた羽田空港から福岡経由で福江に向かった。

羽田発6時50分，福江着10時30分。前回ガイドをしてもらった山口澄子さんの出迎えを受ける。福江島の貝津（三井楽）港から嵯峨島に学校給食を運ぶ定期便に乗船。船客6名，荒波をけて全速力10分で嵯峨島港に到着。港から山の中腹にある嵯峨島教会に徒歩で15分。1797（寛政9）年に外海（大村藩）から迫害を逃れてきた潜伏キリシタンが住み着き，1888（明治21）年に小聖堂が建立される。1918（大正7）年に木造の現教会が建てられ，修復を繰り返しながら使用されているという。古くは流人の地であった嵯峨島は高齢化により人口は100人を切り，嵯峨島教会の信者は15人という。高齢化により10年以内に廃堂になるのかも知れない。港のベンチで帰りの船を待っていると漁船の修理に来ていた山口さんの知人の田端よしおさん（88歳）と出会う。聞くと田端さんは毎日教会周りを掃き清めて，周囲の雑草を刈り取り，炎天下の作業で今年3回熱中症で福江の病院に搬送されたという。十字架の御縁を説明し贈呈すると感激で涙ぐんで話が途切れた。福江島に戻り，廃校になった保育園を改装したという「とうがらし」で中華を食べる。エビ焼きそば，ワントンメンが思いのほかおいしくて驚く。車に乗ること40分で1962（昭和37）年に建立された玉之浦教会に到着。保護者は聖フランシスコ・ザビエル。訪問時間が夕暮れだったため教会全体が夕日に浮かび上がる神秘的な光景に遭遇した。続いて人気のない山道を分け入り自動車で30分。現在は廃堂になった繁敷教会。1853（嘉永6）年キリシタン一家族が開墾し，慶応年間には潜伏キリシタンが加わり八家族に増えた。1870（明治3）年から始まった拷問，弾圧，財産没収に耐えて1919（大正8）年に麓の集落に教会を建立したが，第二次世界大戦中にダム建設作業員の宿舎にあてられ，1943（昭和18）年作業員の失火で焼失し，1974（昭和49）年現在の教会が再建されたが，2年前に最後の信徒が亡くなり廃堂となった。福江に戻り，泊りはGOTO TSUBAKI HOTEL。夕食はステーキを求めてレストラン望月に行くもヒレスステーキは売り切れでステーキ&ハンバーグ定食で我慢。

12月8日福江港発10時10分博多港行き「太古」に昼食用の鬼鯖鮓を買って乗船。小値賀島

まで大型フェリーで若松島、中通島の間を抜けて上五島青方港を經由して3時間の快適な船旅。船内で鯖がダブルに盛り付けられた鯖鮓に舌鼓をうつ。13時小値賀島港着。ガイドの近藤さんの出迎えを受けて島内観光開始。港の近くにある金毘羅山の展望台から壮大なパノラマを見る。上五島、明日行く野崎島、遠くに佐世保が遠望できる。

斑大橋を渡って斑島にある玉石大明神、日本最大のポットホール、五両ダキを見て、1972（昭和47）年の野崎島集団離島に際して野崎島瀬戸協教会の司祭館を移築して建てられたカトリック小値賀教会を拝観。祭壇左手にザビエル像、右手に聖母子像がある質素な教会であった。次いで海岸の砂が赤い赤浜海岸を回り、702年に建立された地ノ神島神社から4キロ沖合の野崎島にある704年建立の沖ノ神島神社を見て民宿御縁に到着。6畳間の畳に敷かれた布団で寝る。心配していたトイレも温水洗浄便座で一安心。民宿といえば地魚中心の食事を期待していたが、すき焼き・エビフライ・茶碗蒸し・マグロの刺身でがっかり。

12月9日朝6時に起床。6時半に朝食をとり、小値賀島笛吹港7時25分発定期船はまゆうで30分かけて野崎島野崎港に向かう。野崎島ビジターセンターで入島のガイダンスを受けて急峻な坂道を上ること40分で旧野首教会に到着。普段は閉館されているが県職員の定期調査に出くわし開館しているというチャンスに恵まれ教会内部を外から拝観。小値賀島、野崎島にある地ノ神島神社、沖ノ神島神社は飛鳥時代に創建されたもので、遣唐使船の中継地を示唆する文献が残り野崎島野崎集落には神道系の住民が生活していたが、1840年頃小値賀島で海運業を営んでいた田口徳平治が長崎平戸で処刑寸前だったキリシタン3名を漁網に隠して連れ出し、野崎島舟森に入植させたのが舟森集落の始まりとされている。旧野首教会は1908（明治41）年17戸の信者が半農半漁の生活で切り詰めて貯めた750円で建立された。設計は五島の多くの教会を設計した鐵川與助が冷水教会堂の次に設計している。野生のシカの群れを撮りながら野崎港に戻り、10時半、チャーターしてあった海上タクシーで上五島津和崎港に移動する。途中で野崎島の裏側にある舟森集落跡を海上から見る。急峻な崖を切り開いて開墾された段々畑と教会跡に建てられた白い十字架が印象的だった。津和崎港から上五島を縦断する途中、江袋教会記念堂で江袋教会を守っている尾上勇さん（92歳）と面会し、祝福十字架を進呈する。長い信仰生活の中でこのような日が来るとはと感涙する尾上さんにもらい泣きする（後日に丁寧なお礼の手紙をいただきさらに感激）。尾上さんを紹介してくれたガイドの青木さんの案内で廃堂になった草木にうずもれた小串大浦教会を見学し、竹酔亭で牛蒡天婦羅入り五島手延べうどんを食べる。上五島をタクシーで4時間かけて縦断し、奈良尾港発16時のフェリーに乗り、17時20分福江港に到着。ガイドの山口さんと創作料理相良で五島産ウナギ、ヒラマサ・マグロカルパッチョ、つくね、カブレゼ、明太おにぎりコンセプトのない夕食。

12月10日五島つばき空港発8時55分で帰院する。今回の巡礼で五島列島既存の51教会巡礼を完了。祝福十字架が手元に5本残ってしまった。次は平戸、天草かなあ。